

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！(7月)①

バラ科果樹：
クビアカツヤカミキリ

フラス



幼虫

成虫

特徴

- ◆ 成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆ 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆ フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆ 若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあり、この時期の防除が効果的。

防除のポイント

- ◆ ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで捕殺する。
- ◆ 成虫発生期(6月～8月上旬)に樹体にモスピラン顆粒水溶剤等を散布し、成虫やふ化直後～初期の幼虫を殺虫する。
- ◆ フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**、**ベニカカミキリムシエアゾール**を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。



「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策(R5.3改訂版)」についてもご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2303.pdf

なす：うどんこ病



葉の病斑

特徴

- ◆ 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、**パンチョTF顆粒水和剤**、**スコア顆粒水和剤**、**プロパティフロアブル**などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。
 農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

令和5年度版に
 更新しました！

次回の情報は7月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫発生・防除情報メールサービス

特に注意！(7月)②

ねぎ:ネギアザミウマ (えそ条斑病)



葉の病斑



ネギアザミウマ

特徴

- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するウイルス病。
- ◆ はじめ葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が癒合拡大し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を徹底するとともに、感染株を見つけたらほ場外に持ち出し適正に処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、グレーシア乳剤、プレオフロアブル、スミチオン乳剤等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

かんしょ(さつまいも): サツマイモ基腐病



被害株の葉の変色

特徴

- ◆ かび(糸状菌)の一種が原因。
- ◆ 葉が黄変・萎凋したり、茎の基部が暗褐色～黒色に変色する。
- ◆ 進行すると茎葉の枯死、いもの腐敗が発生する。

防除のポイント

- ◆ 消毒済みの苗を購入する、もしくは登録のある農薬(ベンレート水和剤など)で消毒後に植え付ける。
- ◆ 排水不良により発生しやすいので、ほ場の排水対策を徹底する。
- ◆ ほ場を定期的に見回り、発病株の早期発見に努める。
- ◆ 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分するとともに登録農薬を散布する。



▲詳しくはこちら

野菜類・花き類: オオタバコガ



幼虫



卵

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレバソフフロアブル5(なす、トマト、ミニトマトなど)、スピノエース顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、きくなど)、プレオフロアブル(なす、トマト、ミニトマト、未成熟ともろこし、花き類・観葉植物など)等を散布する。

6月～8月は農薬危害防止運動月間です。農薬は適正に使用し、事故・被害を防止しましょう！

令和5年度版に
更新しました！

次回の情報は7月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(7月)

水稻

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻			いもち病		
			縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)		
		斑点米カメムシ類			

※発生に注意:ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)

果樹類

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			べと病		
			褐斑病		
			晩腐病		
			黒とう病		
			チャノキイロアザミウマ		
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	発生に注意:クビアカツヤカミキリ				
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
			ミカンサビダニ		
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般		果樹カメムシ類			

野菜類

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
			灰色かび病		
				うどんこ病	
			アザミウマ類		
ねぎ	発生に注意:さび病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ(えそ条斑病)				
さつまいも (かんしょ)	発生に注意:サツマイモ基腐病				

※ねぎは令和5年6月より巡回調査を開始したため、平年値がありません。

病害虫の発生予報(7月)

花き

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく			黒斑病・褐斑病		
			アザミウマ類		

野菜類・花き類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類			シロイチモジヨトウ		
				ハスモンヨトウ	
			コナガ		
				オオタバコガ	
				アブラムシ類	
				コナジラミ類	

水稻

いもち病



葉いもちの病斑

特徴

- ◆ 低温多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などで助長される。

防除のポイント

- ◆ 常発ほ場で箱施用剤を使用できない場合は、発生前に**オリゼメート粒剤**、**コラトップ粒剤5**、**ゴウケツ粒剤**、**サンブラス粒剤**などを散布する。
- ◆ 発生を認めたら**ブラシフロアブル**などを散布する。

縞葉枯病(ヒメトビウンカ)



縞葉枯病発病株



ヒメトビウンカ
成虫

特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。
- ◆ り病株では、新葉が垂れ下がって枯死する(ゆうれい症状)。

防除のポイント

- ◆ ヒメトビウンカが飛来しないように、周辺のイネ科雑草を除草する。
- ◆ 発生が多い場合は、**アプロード水和剤**、**スタークル粒剤**・**アルバリン粒剤**、**エクシードフロアブル**などを散布する。

斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ



イネホソミドリ
カスミカメ
(アカヒゲ
ホソミドリカスミカメ)



ホソハリカメムシ

特徴

- ◆ アカスジカスミカメ、イネホソミドリカスミカメ(別名アカヒゲホソミドリカスミカメ)、ホソハリカメムシなどの発生が多い。
- ◆ 畦畔のイネ科雑草などから飛来する。
- ◆ 薬剤散布は穂揃期に行う。

防除のポイント

- ◆ 出穂10日前までにほ場周辺の畦畔や休耕田の除草を実施する。

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)



成貝



卵塊

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2~7cm程度。

注)成貝の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

カラー技術資料

「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう!」はこちら
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

防除のポイント

- ◆ ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
- ◆ 水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。
- ◆ ほ場が凸凹の場合、深いところの稲が食害されるため、代かきをきちんと行い、ほ場を平らにする。
- ◆ 用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網(編目5mm以下)を設置する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

果樹

ぶどう

注意！

一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培(笠掛けを含む)には使用しない、等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。

べと病



葉裏の症状



葉表の症状

特徴

- ◆ 梅雨時期など、雨が続くとまん延しやすい。

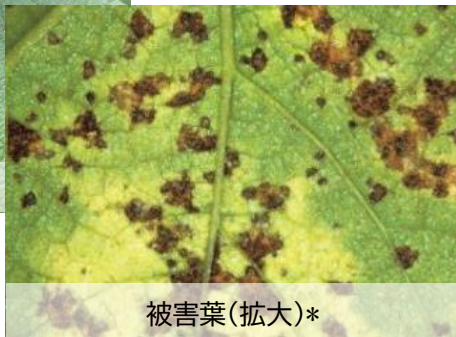
防除のポイント

- ◆ 露地の多発ほ場では梅雨の晴れ間の予防が重要である。
- ◆ 発生を認めたらオロンディスウルトラSC、ベトファイター顆粒水和剤、ライメイフロアブルなどを散布する。
- ◆ 農薬を散布する際に、薬害や果実の汚れを避けるため、笠・袋かけ後は棚上散布を行う。

褐斑病



被害葉



被害葉(拡大)*

特徴

- ◆ 米国系品種に弱い品種が多く、デラウエア、バッファローなどに発生が多い。
- ◆ 多発すると、葉が早期落葉し、果実の着色が不良となる。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 発生を認めたら、オンリーワンフロアブル、ネクスターフロアブル、フルーツセイバーなどを散布する。

晩腐病



被害果※

特徴

- ◆ 新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発しやすい。
- ◆ デラウエアに発生が多く、病原菌は結果母枝、巻きつるなどで越冬する。

防除のポイント

- ◆ 施設内への雨滴の侵入を防ぐ。
- ◆ 笠かけや袋かけを行う。
- ◆ 被害果房は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 前年度の発生状況をふまえ、フルーツセイバー、オンリーワンフロアブルなどを予防的に散布する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

果樹

ぶどう

注意！

一部の農薬は、果粉溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期から果粒肥大期の散布を避けて袋かけ以降に使用し、無袋栽培(笠掛けを含む)には使用しない、等の注意事項が掲載されていますので、よく確認してください。

黒とう病



被害果(拡大)



被害果

特徴

- ◆ 葉、果実、新梢、巻きヒゲに発病し、大粒系に発生が多い。
- ◆ 枝や果実に黒色の病斑が生じ、果実肥大の不良など品質低下につながる。

防除のポイント

- ◆ 雨よけすることで被害が軽減できる。
- ◆ 被害果房や枝は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 5月中旬以降は**ストロビードライフフロアブル**、**オンリーワンフロアブル**などを予防的に散布する。

チャノキイロアザミウマ



被害果*

特徴

- ◆ 巨峰、シャインマスカット等の大粒系品種で被害が大きくなりやすい。

防除のポイント

- ◆ **ディアナWDG**、**エクシレルSE**、**モスピラン顆粒水溶剤**などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

もも

せん孔細菌病



被害果



葉の病斑

特徴

- ◆ 葉に黄色から赤褐色の病斑が生じ、やがてせん孔する。
- ◆ 果実でも針で突いたような褐色斑点を生じ、果実生育により大小様々の病斑となる。
- ◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 風当たりの強い園地では、防風ネットを設置するなどの対策を行う。
- ◆ 6月以降も、せん孔細菌病が多発している園では、収穫前日数に注意して**バリダシン液剤5**、**スターナ水和剤**、**チオノックフロアブル**などを散布する。

シンクイムシ類



被害果



被害枝

特徴

- ◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆ 被害枝・果実は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 産卵期から幼虫加害期(5月上旬～7月下旬)に**ノーモルト乳剤**、**アディオン乳剤**、**サムコルフロアブル10**、**アクタラ顆粒水溶剤**、**ディアナWDG**などを散布する。

温州みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆ 梅雨時期など雨が続くと発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。降雨が多い場合には、散布回数を増やす。

※注意！

かんきつ(みかんを除く)では、上記3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時期に注意する。また、皮膚のかぶれに注意する。

ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 6月中～下旬に、ハーベストオイル、トモノールSなどのマシン油剤を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、ダニコングフロアブル、スターマイトプラスフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

ミカンサビダニ



被害果*

特徴

- ◆ 梅雨明け後に発生が多くなりやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生の初期に、ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。

※注意！

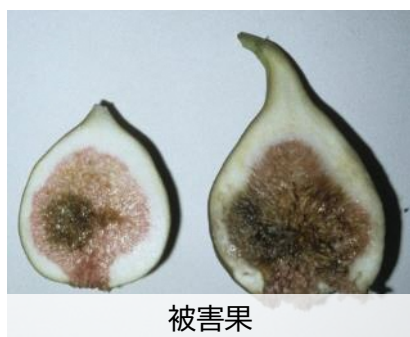
かんきつ(みかんを除く)では、上記3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時期に注意する。また、皮膚のかぶれに注意する。

- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤に対して薬剤抵抗性が生じている地域では、7月中旬にコテツフロアブル、ダニエモンフロアブル、ダニカット乳剤20などを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

いちじく

アザミウマ類



被害果

特徴

- ◆ 果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆ スピノエース顆粒水和剤、ディアナWDG、コテツフロアブル(登録はヒラズハナアザミウマのみ)などを散布する。
- ◆ 果実の直径が2.5cmになったときの散布が有効である。
- ◆ ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 光反射シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるので、散布前に必ずラベル等で確認する！

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

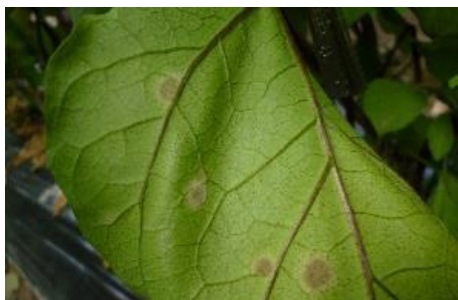
防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、アディオンの乳剤(かんきつ、もも、かきなど)、スタークル顆粒水溶剤・アルバリン顆粒水溶剤(かんきつ、もも、かき、ぶどう、なしなど)等を散布する。

野菜

なす

すすかび病



葉の病斑

特徴

- ◆ 高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生を認めたら、スコア顆粒水和剤、プロポーズ顆粒水和剤などを散布する。

灰色かび病



被害果

特徴

- ◆ 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすい。
- ◆ 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤、セイビアーフロアブル20等を、発生を認めたら、ゲッター水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。
- ◆ 開花後の花弁を取り除く。
- ◆ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ(葉・果実)やミカンキイロアザミウマ(葉・主に水なすの果実)による被害が大きい。
- ◆ 苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、アフーム乳剤、ファインセーブフロアブル、モベントフロアブル、ダブルシューターSEなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 雑草は増殖場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

ねぎ

さび病



葉の病斑

特徴

- ◆ 葉面にオレンジ色のやや隆起した小斑点が多数できる。
- ◆ 多発すると被害葉が枯死する。
- ◆ 気温が22℃ぐらいで雨の多いときに発生が多い。
- ◆ 肥料切れした畑で発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 菌は被害植物上で越冬するので、被害株を集めて、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発病前に、アミスター20フロアブル、ジマンダイセン水和剤などを予防的に散布する。

ネギハモグリバエ



葉の食害痕

特徴

- ◆ 葉の内部を幼虫が食い進み、その痕が細長く白い筋になる。
- ◆ 新系統が発見されており、従来に比べて一葉あたりの幼虫数が多く、集中的に葉肉を食害するため、葉が白化したようになる。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、系統に関わらず、「ハモグリバエ類」、「ネギハモグリバエ」に適用のあるグレーシア乳剤、アフーム乳剤などにより、発生初期の防除を徹底する。



▲新系統について詳しくはこちら

花き(きく)

黒斑病、褐斑病



病斑*

特徴

- ◆ 雨滴によって感染が拡大する。
- ◆ 病原菌の生育適温は24～28℃ぐらいである。

防除のポイント

- ◆ 被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布し、予防に努める。発生を認めたら、トップジンM水和剤(登録は褐斑病のみ)、ベンレート水和剤などを散布する。

注)ダコニール1000は、花卉に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので着色期以降の散布はさける。また、かぶれに注意する。
ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。
また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆ 花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなどが加害し、葉には主にクロゲハナアザミウマなどが加害する。
- ◆ ミカンキイロアザミウマはウイルス(TSWV※1、CSNV※2)を媒介する。

※1 キクえそ病の病原ウイルス

※2 キク茎えそ病の病原ウイルス

防除のポイント

- ◆ ほ場内および周辺の除草を行う。
- ◆ きくの残さは放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ ビニールなどのマルチングにより、土中での蛹化を防ぐ。
- ◆ 施設開口部に目合い0.8mmの赤色ネット又は0.4mmの白色ネットを展張する。
- ◆ 発生を認めたら、アファーム乳剤、グレーシア乳剤、スピノエース顆粒水和剤などを散布する。

野菜類・花き類

※作物毎に登録内容が異なるので、散布前に必ずラベル等で確認する！

シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、グレースシア乳剤(ねぎなど)、バネビアOD(ねぎなど)、ロムダンフロアブル(ねぎ、花き類・観葉植物、きく)などを散布する。

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アデオン乳剤(さといも、さといも(葉柄)、オクラ、豆類(未成熟)など)、ディアナSC(かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど)、コテツフロアブル(さといも(葉柄)、さといも、オクラ、花き類など)、プレバソンフロアブル5(さといも、なす、ピーマンなど)等を散布する。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

コナガ



幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆ 発生を認めたら、アクセルフロアブル(非結球あぶらな科葉菜類など)、ディアナSC(非結球あぶらな科葉菜類など)等を散布する。



成虫 ※

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**(なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど)、**アドマイヤー顆粒水和剤**(なす、トマト、ミニトマトなど)、**コルト顆粒水和剤**(なす、トマト、ミニトマト、花き類など)、**ウララDF**(なす、トマト、ミニトマト、ピーマンなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

コナジラミ類



タバココナジラミ ※

特徴

- ◆ すず病を引き起こす他、トマトではタバココナジラミは吸汁による果実の着色不良、TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)の伝搬等、様々な被害を引き起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病などのウイルス病は、感染すると株ごと除去する以外に対策がないため、媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- ◆ **グレーシア乳剤**(なす、かんしょ、トマト、きゅうりなど)、**ベネビアOD**(トマト、きゅうりなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。